

みちよ誕生

辻村みちよは、明治21年に足立郡桶川宿（現桶川市）で生まれ、桶川尋常高等小学校（旧桶川南小学校）を卒業しました。

みちよは、独学で小学校准訓導の資格を取得し、16歳で父が校長を勤める加納尋常高等小学校に勤務しました。その後、当時の女子教育最高峰の東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）を卒業し、7年余り師範学校等の教師を勤めました。



学者への道



この頃、女性も社会進出し、みちよの恩師保井コノや黒田チカからは研究者として、男性に負けない活躍を始めていました。みちよは、研究者への思いを捨てきれず、人がうらやむ師範学校の教師を辞め、当時、大学は女性に入学を許可しない時代だったので、北海道帝国大学の農芸化学科食品研究室の無給副手（助手）として研究に携わりました。こうして32歳のみちよは、北海道へと旅立ったのです。

カテキンの発見

その後、東京帝国大学医化学教室を経て、理化学研究所で鈴木梅太郎博士に師事し、大正13年に、緑茶に多量のビタミンCが含まれることを発表しました。また、昭和4年には、緑茶中のエピカテキンを世界で初めて発見しました。



日本初の女性農学博士



そして、カテキンの発見や渋みの主成分タンニンの分子構造の決定等、画期的な業績をあげました。昭和7年6月、東京帝国大学から学位論文「緑茶の化学成分について」で農学博士の学位を受け、44歳で日本初の女性農学博士になりました。

女性であるがゆえの困難の末につかんだ博士号です。

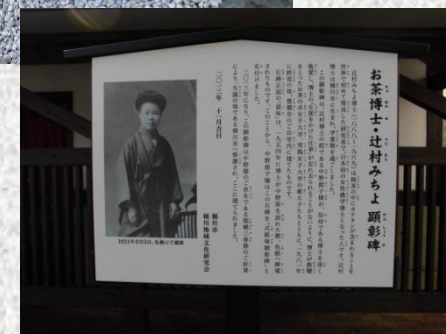
教授時代と晩年

みちよは、お茶の水女子大学教授時代、家政学部創設に伴い、学部長に就任しました。その後も大学施設運営視察団団長として渡米するなど、多忙の中でも緑茶の研究を続け、お茶の水女子大学を退官後、実践女子大学へ移り、昭和31年には日本農学会から日本農学賞を受賞しました。

「お茶博士」みちよは、自らの努力で道を開き、多数の後輩を育てつつ研究一筋に歩み、昭和44年6月1日、81年の生涯を閉じました。



式紙塚頭彰碑



みちよ没後12年を経て、豊橋市船町地内に、お茶の水女子大学卒業生有志、実践女子大学卒論生徒会一同並に姪中野韶子により、色紙「滋味」によせて顕彰碑を建立しました。現在、顕彰碑は生誕の地、桶川市内のポケットパークに移設され、桶川市民だけでなく中山道を道往く人々に、お茶博士「辻村みちよ」の功績を今に伝えています。

辻村みちよ博士の年譜

年	年齢	出来事	年	年齢	出来事
1888	明治 21 年	●埼玉県北足立郡桶川町（現桶川市）に、父辻村甚太郎、母つねの次女として生まれる	1924	大正 13 年	36 ●緑茶中に多量にビタミンCが含まれることを発見
		●長兄鑑、長女きよみ	1929	昭和 4 年	41 ●緑茶中の成分ティタンニンを発見、論文「緑茶の化学成分について」において報告
1890	明治 23 年	2 ●弟鑿（きたふ）生まれる	1932	昭和 7 年	44 ●日本初の女性農学博士の学位授与（東京帝国大学より）
1904	明治 37 年	16 ●加納尋常高等小学校に勤務	1934	昭和 9 年	46 ●ティタンニンの構造を決定し世界的に意義を認められる。
1905	明治 38 年	17 ●東京府立女子師範学校を経て東京女子高等師範学校に入学	1949	昭和 24 年	61 ●お茶の水女子大学教授に就任（家政学部初代部長）
1913	大正 2 年	25 ●東京女子高等師範学校理科（現お茶の水女子大学）卒業	1951	昭和 26 年	63 ●大学施設運営視察団長として、渡米
1913	25	●横浜高等女学校、埼玉県女子師範学校勤務	1955	昭和 30 年	67 ●実践女子大学教授に就任
～	～		1956	昭和 31 年	68 ●日本農学賞受賞
1920	32		1963	昭和 38 年	75 ●実践女子大・お茶の水女子大の名誉教授に就任
1920	大正 9 年	32 ●北海道帝国大学で無給副手として研究	1968	昭和 43 年	80 ●勲 4 等宝冠章受章
1922	大正 11 年	34 ●東京帝国大学医学部医化学教室にて柿内三郎教授指導のもとに生化学研究	1969	昭和 44 年	81 ●豊橋市船町に定住す
1923	大正 12 年	35 ●理化学研究所員となり農学博士鈴木梅太郎研究室にて食品化学、栄養化学、生物化学の研究			●愛知県豊橋市で逝去（81 歳）
		●関東大震災により同研究室焼失			●同日従五位に叙せられる

※参考「辻村みちよ博士略年譜」（作成・編集：元桶川南小学校校長五井丕氏）